

絆

～きずな～



毎月11日は「人権を確かめあう日」です

2024. 7. 19(金)発行

文責 辻本はるひ

自分も友だちも大切にできましたか？

気がつけば、もう7月も半ば。個人的には、バタバタしただけで、あっという間の3ヶ月半でした。

みなさんはどうでしたか？ 楽しく、充実した1学期だったでしょうか。

「とても充実していた！」と笑顔で答えられる人も多いかと思いますが、つらい思いをしたことがある人もいるのではないかと思います。

ろうかを歩いていたり、先生方とお話ししたりしていて、気になることがいくつかありました。

ひとつは「あだ名」と「からかい」です。

「あだ名」というのは、その人の見た目や性格などの特徴をとらえて付けられることが多いものです。でもそれは、「あだ名」を付ける側の勝手なイメージで付けることが多く、本人が気に入っているとはかぎりません。むしろ、いやな思いをしていることがほとんどだと言えます。

昔から「あだ」という言葉は「敵」や「恨み」などを表します。決して良い印象は与えませんし、よりよい人間関係を築くものにもなりません。「からかい」も同じです。大切なのは「相手の気持ち」です。人を大切にすることは、自分を大切にすることです。相手にいやな思いをさせるのではなく、相手のいいところを見つけましょう。そして、相手も気に入る「愛称」や「ニックネーム」で呼び合えば、信頼関係も深まり、よりよい人間関係を築いていけると思います。

これから夏休みに入りますが、1学期を振り返り、誰かにいやな思いをさせていなかったかなと考えてみてください。

2学期は「あだ名」が飛び交うのではなく、誰もが笑顔になる「愛称」や「ニックネーム」が聞こえるようにしたいですね。



警報発令はうれしいこと？

もうひとつ気になったことは、授業をしている午前中に警報が出たときのみなさんの反応です。

「警報が出た」と知って、まるで地響きのような音と「わあー」という歓声が聞こえました。職員室にいた数名の先生が「ちょっと喜びすぎやなあ」「自分だったら、ちょっと落ち着かせて話するけどなあ」とおっしゃっていました。

「同感だな」と思いました。

警報が出れば、天候の状況によっては下校となる場合があるので、みなさんが喜ぶ気持ちはよく分かります。でも、ちょっと考えてみてください。

最近の大雨は一カ所に何時間も降り続け、災害をもたらすものが多くなりました。必ずどこかで床下・床上浸水があったり、土砂崩れがあったりというニュースが流れます。大きな川が氾濫(はんらん)すると、地域全体が水没することもあります。田畑や家を失う人がたくさんいます。命を失う人もいます。

奈良県は災害の少ない地域ですが、決して他人事ではありません。警報は、みなさんの一番大切な命を守るために欠かせないものです。「早く帰れる」「学校が休みになる」と大喜びするのではなく、どこかで大変な思いをしている人々がいること、そんな人々を必死で守ろうとしている人々がいることに気づいてほしいと思います。

夏休み中も2学期も台風がやってくるなどして、災害級の大雨が降ることが予想されます。暑さも災害級だと言われます。注意報や警報・熱中症警戒アラートなどを正しく理解し、自分や大切な人の命を守れるように、どこかで大変な思いをされている人々を気遣えるような人になってほしいと思います。

さあ、夏休みが始まります。勉強に、部活動に、そして普段できないことに挑戦するいい機会です。充実した夏休みを過ごし、みんなそろって2学期を迎えましょう！

